

メルマガ第6号

=====

★☆温暖化適応ビジネスに関するメールマガジン 2019★☆
第6号（2019年3月1日発行）

このメールは経済産業省より「平成30年度気候変動適応効果可視化事業（途上国における適応分野の我が国企業の貢献可視化事業）」の委託を受けている三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が発信しています。

=====

温暖化への適応（気候変動の影響の軽減・リスクへの備え）は、気候変動の緩和（温室効果ガスの排出抑制）と共に温暖化対策の重要な柱です。経済産業省では、適応をビジネス機会ととらえ、企業の成長へとつなげていく取り組みを推進しています。

■温暖化適応ビジネスニュース■

<目次>

- 【公表】「適応グッドプラクティス事例集（暫定版）」を公開しました
- 【開催報告】「適応フォーラム2019～情報開示時代の適応ビジネス～の開催」
- 【関連ニュース】適応ビジネスの資金に関する最新ニュースを紹介します

□【公表】「適応グッドプラクティス事例集（暫定版）」を公開しました

2019年2月版の適応グッドプラクティスを公開しました。新しい事例11件を追加して、合計30件の事例を紹介しています。

今後、有識者による座談会コラムを加えたアップグレード版及び英語版が随時公開されます。

<URL>

http://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/tekiou.html

□【開催報告】「適応フォーラム2019～情報開示時代の適応ビジネス～の開催」

2月28日に、大勢の方々の参加を得て、フォーラムを開催しました。

最新版の適応グッドプラクティス事例集の紹介（経済産業省）、災害時でも安心して使うことのできる電力・通信インフラビジネス（株式会社チャレナジー）、世界各地の厳しい環境下でも質の高い農産品の創出を可能とする技術（メビオール株式会社）、適応貢献製品の社内認定制度を通じた情報開示（住友化学株式会社）、求められる企業の気候変動関連の情報開示の在り方（三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社）について講演者から発表をいただきました。企業は適応を本業ビジネスとして展開しており、情報開示が新たな資金を呼び起こす動きが起きていること等について、講演者と参加者による活発なディスカッションが行われました。

最新のプレゼンテーション資料（Web公開用）は下記サイトに掲載されています。

<http://www.sc.mufg.jp/company/news/inform/info20190125.html>

□【関連ニュース】適応ビジネスの資金に関する最新ニュースを紹介します

・株式会社チャレナジーが第一生命保険株式会社から2億円の「インパクト投資」の調達（2019年2月28日）

株式会社チャレナジーの台風でも発電できる風力発電事業に対し、CO2排出削減と安定的な電力供給の観点から、ESG投資の一環であるインパクト投資が実現しました。

https://www.dai-ichi-life.co.jp/company/news/pdf/2018_063.pdf

・米電力大手PG&E社の破綻は、災害リスクの軽視が招いたか（2019年3月1日）

市場参加者の間では気候変動による災害リスクへの関心が急速に高まっており、企業も情報開示の充実など対応を迫られる必要性が高まるとの報道がされています。

・GPIFが『2018年スチュワードシップ活動報告』を公表（2019年2月28日）

資産運用機関において気候変動は重大なESG課題を占める割合がもっとも多い項目となっています。

https://www.gpif.go.jp/investment/voting_2018.pdf

◇お知らせ

このメールは三菱 UFJモルガン・スタンレー証券環境戦略アドバイザー部（旧クリーン・エネルギー・ファイナンス部）のメンバーが、名刺交換等をさせていただいた皆様にお送りしております。

今後、メールマガジンの配信が不要な方は、お手数をおかけしますが、下記メールアドレス宛に配信停止希望のメールをお送りください。

cefc-info@sc.mufg.jp

※配信停止手続きをされた後に再度名刺交換等をさせて頂いた場合、メールマガジンが配信される場合がございます。その際はお手数ですが、再度配信停止のお手続きをお願い致します。

=====

■発行元：経済産業省 地球環境連携室

■事務局：三菱 UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 環境戦略アドバイザー部（旧クリーン・エネルギー・ファイナンス部）

=====